

第15号

発行日 平成6年4月2日

発行所

東京青山同窓会事務局

〒153

目黒区東山1-3-1-401

TEL 03-3716-3667

発行者 豊岡 富栄

東京会報

東京青山同窓会

東京青山同窓会年間維持費

1口1,000円2口以上(年間)

会計幹事 小林元雄(61回)

振込先

安田信託銀行 虎ノ門支店

普4046552 東京青山同窓会

郵便振込口座 東京9-710451



東京青山同窓会総会

(平成4年度) 82回日下部朋子

平成5年11月12日、冷たい雨の降るあいにくの天候にもかかわらず、130余名の参加者を迎え、サンケイホールにて東京青山同窓会総会が開催された。

栗原幹事長(52回)の開催の辞に始まり、斎藤伸雄会長(44回)の当同窓会のより一層の発展を願う挨拶、会務報告へと続いた。その中で、役員改選の報告もあり、長くご尽力頂いた阿尻幹事長(55回)から新たに豊岡幹事長(52回)へと任が移された。阿尻先輩には心からの感謝と今後も変わらぬご指導をお願いすると共に、後任を快くお引き受けくださった豊岡先輩にはご活躍をお願い申し上げます。

続いての懇親会は、開会の辞、校歌斉唱、そして斎藤英四郎名誉会長にご挨拶いただき、遠路新潟よりご参加頂いた青山同窓会鈴木会長、瀧澤校長、長谷川新潟市長のご祝辞をいただいた。そのほか新潟より赤羽幹事長をはじめ沢山のご参加いただき感激のうちに会は進行した。アトラクションでは例年のウルトラジャンケンのほか、熊谷先輩(61回)のご手配によって関口智子さんのヴァイオリンソロ演奏が披露された。関口さんの父君はかつて新潟高校で美術の教鞭をとっておられ、その教え子たちが彼女の応援をしているという、新潟版「勝手連」の様相。いかにも新潟高校らしい心温まるエピソード。丈夫の集まりの中にもひととき美

しい音色と共に豊潤な空気が流れた。会は盛況のうちに進行し、なごりを惜しむ声と次回の再会を約す声で閉会となった。



平成4年度会計実績及び5年度予算

収入の部 (千円)

費用	4年度実績 '92.10/1~'93.9/30	5年度予算 '93.10/1~'94.9/30
年間維持会費	2,794	2,800
同窓会総会費	1,452	1,400
新人歓迎会費	423	400
会議費(領収分)	90	100
新潟本部補助	80	80
定期預金解約立替金	708	—
雑収入	45	10
前年度繰越金	19	141
合計	5,611	4,931

参考年間維持会費 平成3年 ¥580,000/平成2年 ¥1,645,000

支出の部 (千円)

費用	4年度実績 '92.10/1~'93.9/30	5年度予算 '93.10/1~'94.9/30
同窓会総会費	1,395	1,400
新人歓迎会費	685	700
事務局費	0	600
会議費	196	200
名簿管理費	300	100
通信連絡費	1,003	800
印刷費	1,790	1,000
予備費・その他	101	131
次年度繰越金	141	—
合計	5,611	4,931

新潟弁と柔道

44回和光証券相談役斎藤伸雄

このほど「新潟の方言と昔」(考古堂 ¥1,200)という一冊が届けられた。地元礎町で味噌醸造業を営まれる40回生竹林正五郎氏の編著にかかわる力作である。氏は永年にわたる社会事業貢献の故をもって、先年、藍綬褒章の栄誉を受けられた。繙いてみると懐かしい新潟弁が洩れなく綴られており、幼少から青壮年期へかけての思い出がしきりと去来する。「新潟」の地名が文献で最初にみられるのは永禄七年(1564年)だそうで、そんなに古いことではない。しかし新潟の方言、訛は千古につきぬ長江信濃川が越後平野という日本一の穀倉をはぐくんだ風土の中から語られ生み出されてきた言葉である。それなりの意味合い、ニュアンスをもち、独特の親近感ににじませている。

美味この上ない越後米をたらふく食べながら、私は人一倍体力をつけ、中学時代を柔道一筋で明け暮れた。新潟中学チームの一員として全国大会の決勝にまで進出したことは終生忘れられない快挙であり、誇りである。新潟弁を天下に轟かせるような満足感があった。

旧制新潟高校時代も一年のときから大将として出場を重ねた。大学に入ってから結局、柔道部のキャプテンをつとめることになる。新潟米の威力というべきか!

大学卒業の昭和17年は戦局が険しく、直ちに海軍短期現役主計科士官になり、海軍主計大尉として終戦を迎えた。

社会人として新発足するのは、したがって戦後になるが、生まれ故郷と柔道とのご縁はまだまだ続く。日本興業銀行に就職したが、やがて昭和24年新潟支店に転勤となり、実に六年余りにわたって地元で金融マンとして仕事を

することになった。

その間、中学から高校へ衣替えした母校で柔道部のコーチをつとめた。又、府県対抗柔道大会に新潟県代表の一人として何回か出場した。

新潟とのつながりは銀行から証券界に転進した後も続く。昭和48年和光証券に副社長として迎えられた私はやがて社長、会長を歴任し、今日、相談役の職にあるが昭和53年には、地元の本庄証券を依頼されて当社の系列会社としてお引き受けすることになった。新和証券の発足であるが、新潟の“新”と和光の“和”を合わせて“新和”という称号に変更したのである。

東京青山同窓会の会長をお受けして以来、心暖まる思いをするのは、会場のそこかしこで新潟弁の挨拶が取り交されるときである。

豊岡幹事長との付き合いも新潟弁がとりもってくれた。興銀の証券担当役員をしていた当時、東洋経済の記者豊岡君が取材に来た。二言、三言と質疑応答が、重ねられるうち「新潟ですか」ときた。自分では東京弁のつもりでも、アクセント、イントネーションで新潟弁は分かるし、手間暇かけずに親交が始まり、さっそく盃を汲み交すこととなった。

近年、東京青山同窓会では総会と新人歓迎会の間を縫って、各界の一線で活躍中の同門の方々に東洋経済ホールで講演をお願いしている。

テーマ広汎にわたるので、有意義であるし、その後のパーティーがまた楽しい。講師の皆さんが一堂に会することも一興あるかと、割勘の宴を時折催している。称して“斎藤名誉会長を囲む会”である。斎藤英四郎先輩(36回生)は経団連の名誉会長であるとともに東京青山同窓会の名誉会長もお願いしており、何かとお世話になることが多い。82歳の今日なおお指に余る役職を日本のためにこなしつつ、カクシヤクとして日々を過ごしておられる。

“囲む会”に集まるメンバーはNKK山城会長(47回)、北越製紙田中社長(48回)、中央信託銀行坂野上会長(51回)、大成建設倉成副社長(55回)日本航空栗林副社長(59回)住宅金融公庫高橋総裁(60回)等々、錚々たる企業

戦士ばかりである。先日は、そこへ、長谷川新潟市長(61回)も馳せ参じ、地元の中期計画などを手短かに説明してくれた。宴が盛り上がるのはいうまでもないが、ピークに達する頃には、新潟弁が飛び交い、雰囲気を高めていく。高声の談笑の中からビジネスが発掘されたら……と思わぬでもない。

昨今、故郷にたち帰ると言葉がいつか標準化されつつあるのに気付く。テレビの普及と無縁ではないだろうし、上越新幹線、関越高速道路の開通で、タイムディスタンスが縮まり首都圏との交流が頻繁になったことも係わっていると思う。日本が高密な社会になればなるほど、言葉も東京弁化していくのだろう。

しかし、新潟に生まれ育った者には“新潟の方言と昔”はやはり懐かしく、故郷の歴史が丹念に写真で綴られていることも一段と味わいを深めている。本書に記っているとおり、「方言は郷土の宝言」なのかもしれない。生まれ故郷との結び付きは大切にしたいと思う。

環日本海の中核拠点都市を目指して

新潟市長 長谷川義明(61回)
青山同窓会東京支部会員の皆様、いつもふるさと新潟に熱い思いを抱き新潟のため御支援をいただき、厚くお礼申し上げます。この度、会報発行にあたり市の中期計画をとのお話がありましたので、私の目指す“まちづくり”の一端を述べさせていただきますと思います。

私も平成2年11月、市長の皆さんの承任を得て、市長就任以来、四度目の春を迎え、任期総仕上げの年に臨んでおります。この間、「市民に信頼される市政」を基本理念とし、市民生活の安定と市の発展を願い精一杯努力を重ねてまいりました。

現在、平成17年を目標とする第4次総合計画の策定作業に入っておりますが、来るべき新しい時代に向け、重要課題と施策のいくつかを紹介させていただきます。本市は、国際空港、国際港湾、新幹線、高速道路といった高速交通体

系に恵まれ、空港滑走路2,500mが平成7年度中には完成の見込みとなり、磐越道いわき線の新潟～安田間が本年夏頃には開通するなど、その整備充実が進んでおりますが、韓国総領事館に続き、ロシア総領事館の設置についても両国政府間の合意がなされるなど地理的・歴史的優位性と相まって、日本海側の国際的拠点都市として発展が期待されているところであります。今後とも、それぞれの機能をさらに高めるとともに有機的に結び付けるため、新潟駅の連続立体化、万代島の再開発など事業化に向けて措置するとともに、さらに空港3,000m級滑走路に向けての調査や新幹線の空港乗り入れの調査を行うなど、国、県とともに21世紀に向けた都市基盤の強化を図っていく考えております。

さらに、東港工業用地の開発や総合卸売市場、国際貿易センター及び輸入促進地域の整備推進など産業の振興に力を注ぐとともに、東京一極集中是正や地方分権の受け皿として高度都市機能の集積を図る必要があります。

まちづくりは人づくり、百年の計を図るものは人材を育成すべしとよく言われます。

教育の充実、芸術・文化・スポーツの振興等この人の集まりが、やがて都市の発展の原動力となっていくものと考えております。

新郷土資料館、新潟文学館、国際的に通用する音楽専用ホールや能舞台を備えた市民文化会館の建設、鳥屋野潟南部スポーツゾーンなどの整備を積極的に推進し、他に誇りうる文化の創造を目指したいと思っております。

また、近隣市町村との生活圏の一体化は益々強まり、その中で現在、黒崎町との合併気運が盛り上がりしております。お互いの住民の意思を尊重する中で、合併に向け協議が進んでいる所であります。

いずれにいたしましても、都市の発展はそこに住む市民の総合的な福祉の向上に寄与するものでなければなりません。高齢化社会、少子社会の中で「物の豊かさ」から「心の豊かさ」を求めるこれからの市民像に対応した、「職・住・学」の

バランスのとれた総合的な都市の個性と魅力づくりを進めていかなければならないと考えているところであります。環日本海の中枢拠点都市、世界に開かれた国際都市としての飛躍を目差し、次の世代に誇りをもって引き継ぐことのできるまちづくりを推進してまいりますので、皆様方の一層の御支援を頂ければ幸いです。

貴重な同窓会資料

50回生瀬谷誠

23回生（大正5年卒）の西山辰蔵氏より戦前から戦後にかけての同窓会資料が送られてきました。同先輩は現在八王子に在住しておられますが、齢97才になられる高齢にかかわらず、母校へ

の愛着心抑えがたく、何かの参考にというお志からであります。

寄せられた資料から興味を引くのは、昭和16年8月付で作成された「大陸発展新中卒業生名簿」という一冊があるということです。時局を反映して、青山の卒業生が数多く新京、奉天、ハルピン、錦州、大連、旅順等旧満州国に限らず北支、北京、上海、南京、漢口ほかの大陸各地で活躍しておられたことがまざまざと読み取れます。名簿は同門生同士の交信ばかりでなく、後日、歴史を振り返るとききわめて貴重な資料であることを痛感させられます。

同級生同士の文通の限物の一部も同封されており、一読すると心温まる思いがするのですが、青山の会合をもつ

としっかり組織的に開き、交流を密にすればさらに有意義だったのという気持ちにもじんんでいるようです。

平成6年文化講演会

開催のお知らせ

日時 平成6年4月27日

18:00~

場所 東洋経済9階ホール

講師 NHK理事曾我健（62回）

東京大学東洋文化研究所

猪口孝（70回）

平成5年度 会費納入者一覧

Table listing members and their payment status for the Heisei 5th year. Columns include member number, name, and payment status (e.g., 51回, 52回, 53回).

東京青山同窓會會報

Table with multiple columns listing names and numbers. The names are arranged in vertical columns, and numbers (e.g., 66回, 70回, 75回) are placed between columns. The list includes names like 石黒市村, 忠哲, 高橋元, 武彦, 里村清, 友康, 岡村小, 康生, 倉田志, 龍洋, 大塚聰, 奥村康, 佐藤拓, 塩田史, 関史和, 登坂本, 橋本到, 阿部誠, 角智子, 菊池秀, 齋藤曉, 白井和, 田中弘, 茅原裕, 水野立, 宮腰重, 及川朋, 山口操, 塚田茂, 西山谷, 長谷部, 若林毅, 小高正, 小竹樹, 齋藤樹, 山科滿, 吉岡潤, 渡辺昭, 池田一郎, 石栗尚, 岩野高, 宇字清, 倉川由, 紺野保, 佐藤孝, 廣川多, 歌代真, 嶋安, 勝山志, 熊江知, 高橋宣, 田辺文, 深川充, 上野仲, 岡田留, 尾沼温, 權沢宇, 後藤寛, 原井祐, 原田圭, 相場美, 坪井善, 深井浩, 松本啓, 杉崎花, 高島徹, 吉中永, 松本泰, 佐野明, 西澤珠, 伊藤直, 今井慶, 打越輝, 笠原久, 山本夕, 菊原美, 佐藤恭, 佐藤正, 高野明, 田村里, 中原貴, 西脇和, 丹保志, 濱本規, 福田妙, 三浦純, 安田浩